

★★

勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫

「日本株、アメリカ株、インド株」

★★

今年も残すところ後一か月余りとなりました。皆様の今年の資産運用の成は
いかがでしたでしょうか？

日本株は9月に31年ぶりの高値を付け、これで漸く失われた30年が終わり、
新しい相場が始まるのかもしれないという期待感も生まれました。そんな遅れ
ばせながらの日本株を尻目に、アメリカ株は連日のように史上最高値を更新し
ました。コロナが助長した金余りを背景にしたその熱狂に、世界的な冒険投資家
や日本の長期投資のパイオリアは度重なる警告を発しましたが、アメリカ市場
はそれらを嘲笑うかのように上値を追い続け現在に至っています。その強さを
見るにつけ、「やっぱり投資するならアメリカ株だなあ」と感じ入った投資家も
多いと思います。また、それらを組み入れた投資信託は爆発的な人気です。

しかしながら、よくよく見てみると、今年11月17日までの一年間の上昇率
の比較では、日本のTOPIXは17.5%、アメリカのSP500は29.9%であったのに対
し、インド株式市場を代表するSENSEX指数は36.6%だったのです。そうです。
あれ程毎日「最高値更新！」と囃されたアメリカ株を、殆ど無視されたインド株
の上昇率が上回ったのです。更に驚いのは、そのパフォーマンスはGAFAYア
テスラが入っているハイテク株中心のナスダック指数(33.8%)をも凌駕したのです。

「そんなのたまたまだよ。コロナ感染者数が急減して、景気回復期待が過度に
高まった短期的なバブルだよ。アメリカのテーパリングが始まれば新興国株に
は逆風さ」などとインド市場の可能性を真剣に考える人はほとんどいません。

私はそうは思いません。SENSEX指数の公表は1986年1月から始まりまし
たが、現在までの約36年間の上昇率は約109倍で、SP500の22倍、ナスダックの
49倍を大きく凌いでいます。この間TOPIXは2倍にもなっていません。

インド株の強さは、その経済の成長性を背景にこのように長期に亘り圧倒的
でした。でも、このことを日本のメディアも証券会社も全く報じていません。な
ぜなら彼らは商売上、情報入手が容易な日本株の短期的な変動や、AI、ロボティ
クス、電気自動車などに関連した煌びやかな、そして多くの投資家が持っている
アメリカ株の動向しかほとんど話題にしようとしなからずです。

「人生 100 年時代」になるからとしきりに長期の資産運用を推奨しながら、その実は余命数か月に対応したような情報しか提供されていないのが現状です。これからのインド経済は、この活かす通信で 2 年ほど前からお話ししてきましたように、かなり長期的に他国を遥かに上回る異次元の成長を遂げると予想されます。それを受けたインドの株式市場は、短期的に世界の金融緩和縮小の影響を多少受けたとしても、長期では益々投資妙味を増してくると思われま